

第2回 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会

日時 令和2年7月28日（火）15:30～

場所 仙台市役所本庁舎8階ホール

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶、事務局紹介
- 3 委員紹介
- 4 議事
 - (1) 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 日程について
 - (2) 全国都市緑化仙台フェア基本構想 骨子（案）について
 - (3) その他
- 5 閉会

〔配布資料〕

	全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 委員名簿
資料1	全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 日程
資料2	第1回 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 委員意見一覧
資料3	全国都市緑化仙台フェア基本構想 骨子（案）

全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 委員名簿

座長	フクイ シロウ 涌井 史郎	(東京都市大学 特別教授)
副座長	エンドウ ススム 遠藤 進	(公益財団法人 仙台市公園緑地協会 専務理事)
	ウツミ カズトミ 内海 一富	(一般社団法人 宮城県造園建設業協会 会長)
	クドウ ヨシユキ 工藤 良幸	(仙台市小学校長会 (仙台市立南光台東小学校 校長))
	コヅミ ノボル 古積 昇	(一般社団法人 日本造園建設業協会 宮城県支部 支部長)
	コンノ アヤコ 今野 彩子	(株式会社 ユーメディア 取締役)
	サトウ オサム 佐藤 修	(仙台緑のボランティア団体連絡会 会長)
	サトウ シゲヨシ 佐藤 重喜	(宮城県花と緑普及促進協議会 幹事)
	サトウ ミネ 佐藤 美嶺	(防災士／西公園プレーパークの会 理事)
	ショウジ マキ 庄子 真岐	(石巻専修大学経営学部 教授)
	フカマツ ツトム 深松 努	(広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副委員長)
	ホンゴウ トシアキ 本郷 敏章	(公益財団法人 仙台観光国際協会 専務理事)
	マサヤ シゲユキ 舂谷 成幸	(宮城県土木部河川課長)
	ワタナベ カツラ 渡部 桂	(東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 准教授)

※敬称略

●オブザーバー：国土交通省東北地方整備局建政部

全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 日程

5月27日	第1回懇談会（開催意義、開催理念）
7月28日	第2回懇談会（基本構想骨子）
9月初旬	第3回懇談会（基本構想中間案）
10月	パブリックコメント
11月	第4回懇談会（基本構想最終案）
12月	国土交通省との協議

～以降は仙台開催について国から同意が得られた場合の予定～

基本計画策定検討会設置

令和3年度 実行委員会設置、実施計画策定、会場基盤整備

令和4年度 行催事等調整、会場整備

令和5年4月下旬～6月中旬
全国都市緑化仙台フェア開催

第1回 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会

委員意見一覧

(1) 全国都市緑化仙台フェアの開催意義について

○全般的な意見

<p>東日本大震災からの緑の復興、そしていち早く条例等を整備し、緑のまちづくりを推進、保全してきた杜の都仙台が、将来に向けた百年の杜づくりを緑化フェアを通して発信することがなにより重要であると思います。</p>	<p>内海一富 委員</p>
<p>条例制定や太政官布達から節目の年に当たるといことで、市民1人1人が改めてみどりと調和したまちづくりについて考えを深め、新たな魅力やアイデアが湧き出るような機会になればと思います。</p>	<p>佐藤美嶺 委員</p>

○『次世代へと続く新たな「百年の杜」づくり』に関する意見

<p>百年の杜づくりを推進していくことに賛同するところですが、「百年の杜」づくりが包括する意味合いは大きく、ここでは、何を表現していきたいのか概念的でつかみどころがないような印象を受けるのではないのでしょうか。「百年の杜」づくりをどのように表現していくのか、百年の杜づくりを推進していく中で、どのようなことを中心に進めていくのか、もう少しわかりやすく説明することも必要と思います。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
<p>次世代へと続くや次世代を担うという言葉が出てきますが、そのことに異論はありません。しかし、これから検討される基本方針などでは具体的にどの様な手立てをして引き継ぐのかが問われると思います。ご検討ください。 ※具体的には：人材の育成や環境教育の継承発展、市有林への市民参加の森作り、学校林の整備と活用方法などです。そのための拠点作りと予算の裏付けなどは極めて重要です。</p>	<p>佐藤修 委員</p>
<p>「杜の都の環境をつくる条例」「広瀬川の清流を守る条例」から半世紀が経過する節目の年に、2つの条例で目指した世界観（その後の百年の杜づくりプロジェクトに繋がる要素）の経過状況、百年の杜づくりスタートから四半世紀の状況を点検する意義があると思います。それらは道半ばで継承が必要ですので、その中身を検証しながら伝えつつ、今とこれからの時代性を踏まえ、都市の高度化に合わせた緑のより賢い利用、より高度な利用としてのグリーンインフラの理解と普及の意義が次にあると思います。おまとめいただいている内容と同じことをお伝えしているとは思いますが、強調するならば、点検というか蓄積の評価が継承には大事であり、開催意義としても大事かと思っています。</p>	<p>渡部桂 委員</p>

○『市民がみどりと親しむ仙台スタイルの発見』に関する意見

<p>新型コロナ感染拡大により、現状ではインバウンドという機運がだいぶ後退したきらいもありますが、今後もたくさんの方々が仙台を訪れるような魅力づくりを戦略的に進めていく必要があります。これから、仙台を訪れる方々に、どのようにおもてなしをして、ウエルカムして、「杜の都仙台」の魅力をアピールしていくのか、意識した表現を付け加えていく事も必要と思います。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
<p>杜の都のシンボルとして、「青葉山公園から定禅寺通」までの表現は、まさにその通りですが、加えて仙台の中心市街地の景観を形成する広瀬通と愛宕上杉通のイチョウ並木、東二番丁通のケヤキ並木等は杜の都を構成する重要な「緑の回廊」となっております。緑化フェア開催時は、杜の都が新緑に包まれる最も美しい時期、杜の都仙台を訪れる方々にぜひご紹介したいと思います。これら「緑の回廊」も含めた街の緑が「杜の都」のシンボルと捉えたいと思いますが、意図するところにそぐわないでしょうか。</p>	
<p>ことばの表現です。開催意義2の下段、「価値と機能」は入れ替えた方がよいと思います。</p>	
<p>次世代へと続くや次世代を担うという言葉が出てきますが、そのことに異論はありません。しかし、これから検討される基本方針などでは具体的にどの様な手立てをして引き継ぐのかが問われると思います。ご検討ください。 ※具体的には：人材の育成や環境教育の継承発展、市有林への市民参加の森作り、学校林の整備と活用方法などです。そのための拠点作りと予算の裏付けなどは極めて重要です。 *再掲</p>	<p>佐藤修 委員</p>
<p>大事な意義と思います。ここで指す「市民」は、仙台の在住者に限らず、広く一般市民を指す「市民」と捉えます。「みどりに親しむ仙台スタイル」を発見する主体は、そこで暮らす市民であり、仙台に憧れて訪れる一般市民でもあります。むしろ、仙台のスタイルに敏感に反応する（反応できる）人々は仙台の外の市民かもしれません。かつ、みどりの空間を活かしながら街の中が活発に利用される状況には、都市内外からのダイナミックな人の動きが伴いますし、必要です。在住市民にとっては、改めて魅力に気づき、何かそこで始めてみたくなる意義、外からみている市民にとっては、行ってみたくなる、参加してみたくなる、暮らしてみたくなる意義があるのかと思います。 仙台スタイルには様々な形があるのかと思いますが、ビジュアルイメージとして最も印象的典型的なものが、大きな木陰の下に賑わいが生まれている情景です。今後の議論の範疇ですが、これから木陰を利用・創出し、様々な市民活動が行われることを期待する場所に、シミュレーション的にイベント空間を配置し、その結果を元に実際の緑化や活用が行われるよう、イベントから実整備が上手く連動すると良いと考えます。</p>	<p>渡部桂 委員</p>

○『東日本大震災からの復興と防災の杜づくりの継承』に関する意見

<p>東日本大震災からの復興と防災の杜づくりの継承の記述の中で、かさ上げ道路の整備や海岸公園の復旧とともにみどりの再生を進めとありますが、みどりの再生では具体的に何か判りづらいと感じます。ここは海岸防災林（あるいは単に海岸林の表現でも良い）の再生と述べた方が分かりやすいと思いますがいかがでしょうか。これまで抵抗性クロマツなど 33,000 本以上を植栽した実績は素晴らしい取り組みの成果だと思います。</p>	<p>佐藤修 委員</p>
<p>復興というのは大きなキーワードになると考えています。ハードの視点ではグリーンインフラを取り入れた復旧が防災・減災や津波被災地域の復興に欠かせなかったのは確かであると思います。</p> <p>しかし実は、ソフトの視点においても、グリーンインフラによる効果はとても大きいと考えています。震災後の心のケア（大人も子どもも）や、コミュニティの再構築にみどりが果たした役割はとても大きいと感じています。平時の備えにおいても、公園や気持ちの良い散歩道は、地域のつながりや愛着を生み、地域防災を支えています。また、子ども達にとっては、身近にみどりがあり、そこで自由に遊ぶことが、体の発達や生きる力（困難を乗り越える力）を育むことに大きな影響を与えます。子育て中の母親にとっても、子どもの興味が尽きないみどりの多い公園は、育児をする上でとても大事な場所であると感じています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が出てからは、より一層、みどりと触れ合える場所の重要性が注目されていると感じています。以上より、ソフトの視点によるグリーンインフラの重要性についても、ここで触れていただけると嬉しく思います。</p>	<p>佐藤美嶺 委員</p>
<p>大事な意義と思います。政治的、行政的に、「東日本大震災からの復興」は外せないフレーズだと思います。そしてそれだけにとどまらず、広く防災としてのみどりの活用が大事だと思います。ただし、みどりの基本計画や百年の杜づくりプロジェクトでも、地震と津波からの防災が強調されており、その他の多様なみどりの防災機能も意識されていることは文言からも分かりますが、文言のバランスとして前者へのウエイトがとても重く見えます。意義として問題があるわけではありません。復興も道半ば、今後も着実に進めて行く必要がありますが、身近なところで起こる小さな災害も都市内部では沢山あります。開催理念にはしっかり示されていますが、震災復興・防災に加えて、特に人口が密集する都市における防災・減災を意識する意義、実際にみどりが役立つことを市民が理解し、そのために守り増やす意識を高める意義がもう少し強く示されても良いかと思いました。</p>	<p>渡部桂 委員</p>

(2) 全国都市緑化仙台フェアの開催理念について

○全般的な意見

<p>令和5年度に、仙台において緑化フェアが開催されることは、東日本大震災から復興した姿を仙台から全国に発信できる貴重な機会であります。この機会に復興した「杜の都」を全国にお知らせするために、緑化フェアでは、その復興の姿を紹介するとともに、開催に関する理念においては、その趣旨を盛り込んでおく必要があると思います。百年の杜づくりにおいても、震災から復興する「杜の都」の姿は根底にある考え方だと思いますが、震災からの復興という内容は、やはり特化しておくべきものと思います。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
<p>杜の都仙台が今後、百年の杜づくりを通して、都市緑化の推進、保全における全国のリーダー的役割を担う機会となつてほしいと考えます。</p>	<p>内海一富 委員</p>
<p>理念（案）には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「百年の杜」「杜の都・仙台」を学ぶ、みつめ直す、気づく ・みどりが新たな交流や都市の活力を生み出すまちづくり ・自然と調和した持続可能なまちづくり ・防災・減災、みどりの多様な機能の見直し ・グリーンインフラ ・情報発信 <p>という要素が散りばめられており、よろしいかと思ひます。もし加えるなら、これまでの取り組みの点検・検証でしょうか。</p>	<p>渡部桂 委員</p>

○開催理念1に関する意見

<p>「百年の杜」づくりという表現は、仙台市民にとっては聞き覚えのあることと思われまますが、市外から来られるお客様、また、初めて聞く方に、「百年の杜」という表現を容易に理解、受け入れられるのか難しいように感じます。百年の杜づくりを解説するような表現を付け加えても良いのではないのでしょうか。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
<p>解説の中では大人だけでなく子供まで、そして事業者の皆様も広く市民にとらえとあります。しかし、開催理念（案）では、市民や事業者とともに次世代へと続く「百年の杜」のまちづくりを進めるため、と述べています。子供達（小学生から大学生まで）の言葉がどこにも出てきません。次世代を担う子供達を入れるべきではないでしょうか。ご検討ください。</p>	<p>佐藤修 委員</p>

○開催理念3に関する意見

<p>「みどりが持つ多様な機能に着目し」を「ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、」といったような、ソフト面も意識できるような書き方にしていたらと大変嬉しく思ひます。</p>	<p>佐藤美嶺 委員</p>
--	--------------------

(3) その他意見等

○全国都市緑化フェアの概要に関する意見

<p>平成元年（1989年）第7回の遺産にはどのようなものがあるでしょうか？</p>	<p>渡部桂 委員</p>
<p>「都市緑化意識の高揚に関する事業」での「市民への都市緑化への参加機会」については、催事への参加が契機となり、その後に継続する活動を生み出すことも大事かと思えます（新しい活動を起こすことも大事だが、既存の活動に参加者を増やすことも大事）。</p>	
<p>「都市緑化に係る技術普及・向上に関する事業」では、「技術」自体を会場で知っていただくことは大事と思えます。次に伝統的な技術への理解と技術者の新規掘り起こしも大事と思えます。華やかな「庭園緑化」や「花卉園芸」に目が行きがちですが、日常の身近な緑地管理などにどのように市民が参加できるかという、プログラムの技術にも注目したいところです。それがフェア後の遺産になれば尚よしと思えます。</p>	

○全国都市緑化フェアの開催誘致に関する意見

<p>フェア開催による都市緑化、交流人口拡大、経済効果、都市ブランド発現、震災復興、の意義は全て大事と思えます。また、津波被害がある東部エリアにも、会場を位置づけることは復興過程の現状理解の意義があると思えます。</p>	<p>渡部桂 委員</p>
<p>会場は、青葉山足元のメイン会場と都市内のサブ・スポット会場、東部エリアが想定されておりますが、都市は周縁部があつてこそその集約地であり、「都市緑化」の焦点がズレてはいけません。郊外には農地があり農業があり、花卉生産などもあります。周縁部も含む会場の在り方が、仙台フェアの特徴や、交流人口拡大、経済効果、都市ブランド発現、震災復興に繋がられるのではないのでしょうか（公園関連セクションがメインで、農地は入らないのかとは思いますが・・・）。</p>	

○全国都市緑化仙台フェア会場設定イメージに関する意見

<p>メイン会場のエリアについて、資料の図を拝見すると、西公園北側エリアも一部入っているように見えます。北側エリアについてはメイン会場に入るのか。入る場合、どのあたりまで会場となるイメージか教えてください。（ちょうど西公園プレーパークの開催場所がそのあたりになります）</p>	<p>佐藤美嶺 委員</p>
--	--------------------

全国都市緑化仙台フェア基本構想骨子案

1. 開催の意義

1 次世代へと続く新たな「百年の杜」づくり

現在の「杜の都・仙台」のみどりは、戦災復興の中で整備された街路樹や都市公園によりその骨格が形づくられ、その後、「自然との調和ある環境の創造」を理念として掲げた「杜の都の環境をつくる条例」（1973年制定）及び「広瀬川の清流を守る条例」（1974年制定）のもと、みどり豊かな自然環境と風格のある都市空間がともに形づくられてきました。そして緑化フェアの開催される令和5年度（2023年度）には、「杜の都の環境をつくる条例」の制定から50周年となる節目を迎えます。

これまでのみどりを守り育ててきた取り組みを振り返るとともに、その多様な機能に着目したグリーンインフラの考えを市民・事業者と共有しながら、次世代へと続いていく新たな「百年の杜」づくり*を推進します。



S26年の青葉通での植樹
(出典:杜の都仙台の街路樹)

2 みどりと親しむ生活と新たな交流の創出

緑化フェアのメイン会場となる青葉山公園、西公園、広瀬川、そして青葉通や定禅寺通などに代表される美しい並木が連なる都心部の「緑の回廊」は、長い歴史の中で市民に生まれ親しまれてきた「杜の都・仙台」のシンボルです。

人々が集い憩う景勝地を初めて「公園」と定めた太政官布達から150周年となる令和5年度を、公園や街路樹をはじめとした様々なみどりの機能や、暮らしの中でみどりに親しみ憩うことの価値を再認識する契機とします。

また、緑化フェアの開催に併せ、本市の魅力を世界に誇れる杜の都ブランドとして発信するとともに、仙台の魅力に惹かれて国内外から来訪する人々との新たな交流を創出します。



GREEN LOOP SENDAI
(出典:仙台市広報課)

3 東日本大震災からのみどりの復興と防災のまちづくりの発信

東日本大震災は多面的かつ甚大な被害をもたらしましたが、沿岸部では、かさ上げ道路の整備や海岸公園の復旧とともに海岸防災林など、みどりの多重防御に取り組み、まさにグリーンインフラを取り入れた防災機能を高めてきました。

東日本大震災後、東北初となる緑化フェアの開催により、市民と一体となって取り組んだ被災沿岸部のみどりの復興のあゆみ、そして自然を活かした防災力の高いまちづくりを国内外へと発信します。



仙台市東部沿岸地域での市民植樹

2. 開催の基本理念

「杜の都・仙台」の多様な機能を持つみどりが形づくられてきた歴史やあゆみを辿り、その大切さを見つめなおすとともに、震災からの復興のその先にある「新たな杜の都」の創造に向けて、次に掲げる理念のもとに全国都市緑化仙台フェアを開催します。

百年先の、みどり豊かな杜の都を育むために

市民と事業者、そして未来を担う子どもたちとともに、「自然との調和ある環境の創造」を目指してきたまちづくりを振り返り、これまで培ってきたみどりの大切さや素晴らしさについて学び、気づく機会を創出し、担い手の育成はもとより、次世代へと続く「百年の杜」づくりへとつなげます。

みどりと親しむ仙台スタイルの発見、そして人の交流があふれるまちへ

日常生活や余暇にみどりを積極的に取り入れた仙台ならではの生活スタイルやみどりの活用のあり方など、新たな発見を目指すとともに、長い歴史とともに育まれてきた「みどり」が人や企業を呼び込む力となるよう、「杜の都・仙台」の魅力を国内外へ向けて発信し、新たな交流やさらなる都市活力を生み出します。

復興からその先へ、みどりを未来へつなげる

震災からの復興にあわせ進めてきた防災・減災の取り組みや、被災沿岸部のみどりの再生の取り組みを発信・継承するとともに、自然と調和した持続可能なまちづくりを進めるため、グリーンインフラの考えを取り入れ、ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、未来へ向けその可能性をさらに広げる機会とします。

3. 開催の基本方針

次に示す基本方針のもとにフェアを実施することにより、基本理念の実現と継承につなげます。

1. 杜の都の“みどり”の可能性を発信するフェア

- 「杜の都」を育んできた歴史やみどりの復興のあゆみを共有し、その大切さを学び、レガシーへとつなげる機会の創出
- 防災・減災、気候変動適応、生活環境向上、生物多様性保全などグリーンインフラの多様な機能や効果の普及・啓発
- まちの財産であるグリーンインフラを、市民との協働で支えるグリーンコミュニティの形成に向けた取り組み
- 新たな生活様式においてみどりが果たす役割、働き方や子育て環境充実など新たな可能性の考察

2. 杜の都の“みどり”を体感するフェア

- 青葉山・広瀬川の自然環境や、定禅寺通などの美しい景観を活かした「杜の都らしさ」あふれる会場展開
- 豊かな自然や草花に触れ、憩い、遊び、楽しむ、みどりの素晴らしさを発見・実感できる場づくり

3. 次世代の担い手を育てるフェア

- 自然とのふれあいや環境教育、緑化保全の知識や技術の普及など未来を担う人材の育成
- 子どもたちも含めた幅広い世代の市民、事業者の参画・協働によるフェアの実施、まちのみどりの創出

4. みどりと花に囲まれた仙台スタイルを生み出すフェア

- 市民の暮らしの向上につながるみどりや花が身近にある生活スタイルの提案
- 「杜の都」のみどりを舞台として、人が集い、憩い、賑わう、仙台ならではの空間利用のあり方の創出
- みどりや花に憩い楽しむ価値を見つけ、新たな魅力やアイデアが湧き出るような機会の場づくり

5. みどりを通じて人がつながり、まちが賑わうフェア

- “訪れたい、暮らしたい、参加したい”を呼び起こすまちの魅力や仕組みづくり
- みどりが人々の交流や消費を生み出し、地域経済の活性化へとつなげる取り組み

緑化フェア理念の継承

4. 開催テーマ

(1) 統一開催テーマ	『緑ゆたかなまちづくり』 ～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～
(2) 仙台フェアのテーマ	今回の議論を踏まえ次回提示いたします。

※「百年の杜」づくり
これまで受け継ぎ、育んできたみどりを百年という時をかけて次の世代へと伝えていくため、長期的展望を持ちながら、市民・事業者・行政が協働して緑の保全・創出・普及を進め、緑の中に都市が包まれる新しい杜の都を創造していく取り組み。

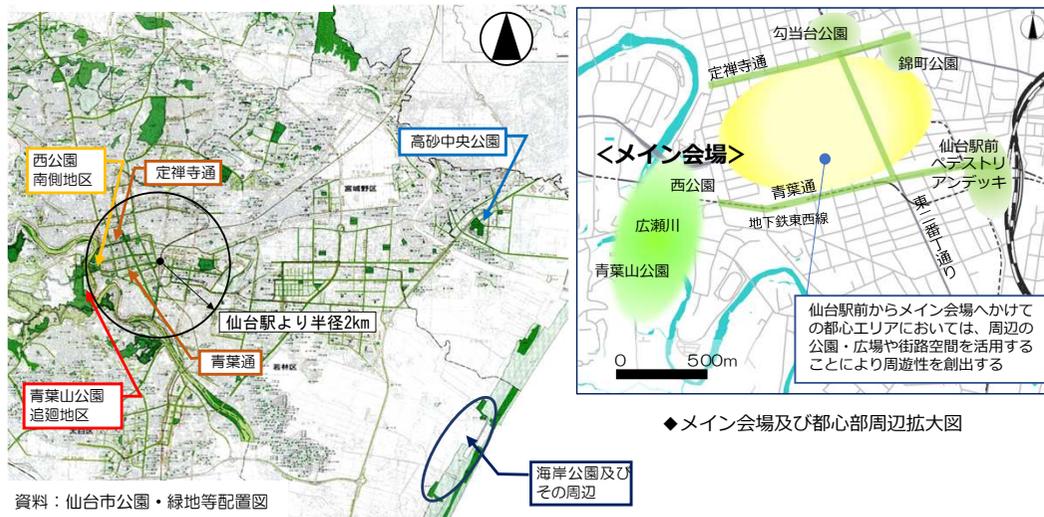
5. 開催の基本的事項

1. 主催者等	主催者 仙台市、公益財団法人都市緑化機構 提唱 国土交通省
2. 開催期間	令和5（2023）年4月下旬～6月中旬（今後精査）
3. 会場	メイン会場：青葉山公園追廻地区・西公園南側地区・広瀬川 その他の会場等：事業実施規模、運営手法なども含め検討
4. 入場者規模	会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して基本計画で設定します。
5. 入場料設定	会場への入場料等は無料を基本とします。 （一部有料プログラムを検討します）
6. 愛称・シンボルマーク	基本計画において、開催テーマを象徴し、仙台らしく、市民に親しまれるものを設定し、広報宣伝等に活用します。
7. 開催事業費	基本計画策定時に概算事業費を算定します。

6. 会場計画

- メイン会場は、開催理念、レガシー効果、立地、空地規模、交通等を踏まえ、青葉山公園追廻地区、西公園南側地区及びその間を流れる広瀬川の一帯とします。
- その他の会場等については、事業実施規模、運営手法なども含め、下記を基本として検討します。
 - ・「杜の都・仙台」のシンボルでもあるメイン会場と都心部の「緑の回廊」による連続性ある空間において、その周遊や賑わいを活かし、街路（定禅寺通、青葉通等）や仙台駅前ペDESTリアンデッキ、公開空地等の企業用地などにて、事業展開を検討します。
 - ・東日本大震災からの復興を全国に発信するという開催意義も踏まえ、津波被害を受けた東部地域に位置する高砂中央公園や海岸公園周辺での事業展開を検討します。

◆検討する会場の位置図

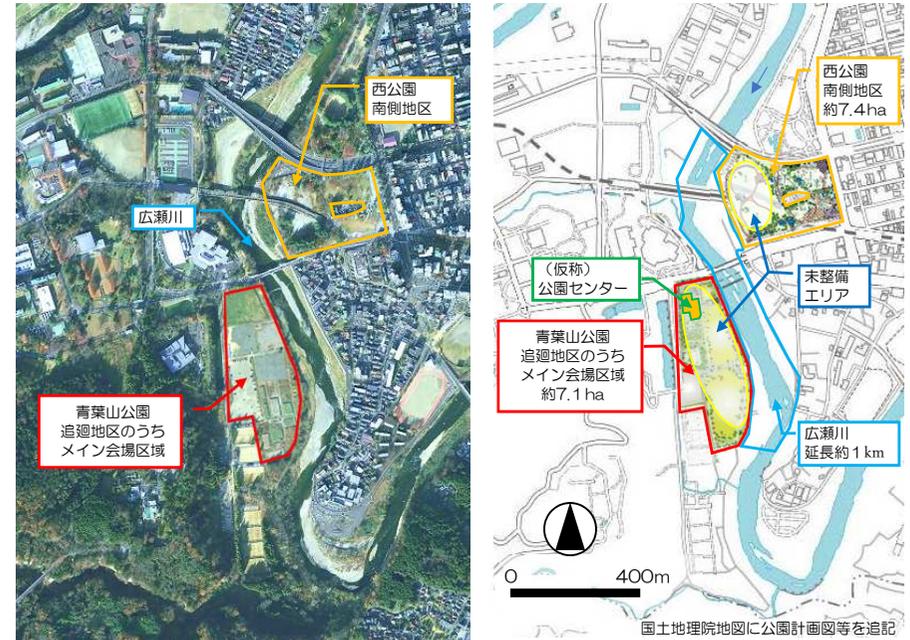


◆メイン会場及び都心部周辺拡大図



メイン会場の検討

- ◆青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、その間を流れる広瀬川の一帯をメイン会場とします。

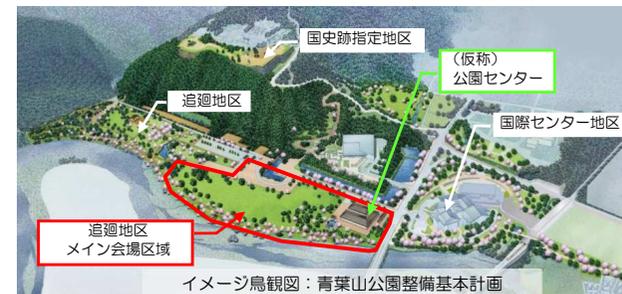


青葉山公園整備事業について

- 青葉山公園では、～仙台の誇りを育み 心に染み入る歴史と自然の景域づくり～を「計画テーマ（将来像）」とし、歴史・文化資源や自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる杜の都のシンボルとなる公園整備を進めています。
- ・同計画では、国史跡指定地区・追廻地区・国際センター地区の3地区に区分し整備計画を示しています。
 - ・このうち今後整備が進む、追廻地区がフェアのメイン会場となります。
 - ・また、青葉山公園のメイン施設と位置付けられた「（仮称）公園センター」がフェア開催前の令和4（2022）年度内にオープン予定となっています。

（仮称）公園センター

機能コンセプト ～ここからはじまる仙台・青葉山の魅力発見～
仙名城跡の歴史的風情と豊かな自然が織りなす青葉山公園のエントランス
【体験・交流機能：集う】【情報発信機能：楽しむ】【飲食・休憩機能：憩う】



7. 事業計画

(1) 出展・展示計画	<p>■ 杜の都・仙台のみどりの資源を最大限に活用し、仙台市の市民・市民活動団体・企業等と連携し、みどりを体感できる出展・展示でフェアを彩ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 青葉山公園追廻地区・西公園南側地区については、都心部を取り囲みみどりのネットワークの新たな拠点として、魅力あるオープンスペースを演出するとともに、杜の都のシンボルである青葉山や広瀬川などの“みどりの資源”の魅力と価値を再認識できる会場とします。 市民活動団体や企業等と連携し、仙台のみどりをより身近に感じ親しみ新たなスタイルの発見に向け、健康増進や癒しなどのみどりがもつ効果や、公園や街路樹等のみどりある空間で過ごすワークスタイルやライフスタイルを体験できる提案型の展示とします。 街なかの展開では、商店街・事業者・まちづくり協議会・市民活動団体等と連携し、花と緑の魅力でおもてなしするとともに、街を歩きたくなるような会場づくりとします。 市民の緑や花に関する活動の成果をアピールできる場とし、フェアを主体的に楽しめる会場づくりとします。 花壇づくりや市民植樹などを通して、小学生をはじめとした子どもや市民の参加と交流の機会とする会場づくりとします。 造園・園芸団体、花と緑の愛好家や全国の自治体の参画を募り、技術やデザインの展示や催事プログラムを展開します。 造園緑化の伝統の技や知恵、最新の緑化技術の紹介など、企業とのタイアップ等による展示を実施します。 仙台のみどりの全体像や震災復興で進めてきた多重防御をはじめ災害に備える海岸防災林などを紹介し、みどりの大切さやグリーンインフラの多様な機能を実感できる展示を企画します。
	<p>◆市民団体や企業による緑や花に関する出展・展示</p> <p>例) ◆小学生との花壇づくり</p>  <p>◆グリーンインフラの発信</p> 

(2) 飲食関係計画 (物販)	<ul style="list-style-type: none"> 会場のテーマ性にマッチした楽しく、豊かなみどりの中の食を堪能する空間づくりをします。 飲食事業のオリジナリティを活かせる出店スキームとし、会場演出とのコーディネートを図ります。(物販も検討します) 魅力ある地場の味覚や話題性もテーマとして、仙台らしさを感じられる、会場と一体的な雰囲気づくりをします。 <p>例) 木陰のキッチンカーやガーデンカフェの楽しい食体験、街なかでのコラボメニュー等</p> 
(3) 会場運営計画	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策も含め、安全で快適な会場運営を第一とします。 多くの市民・企業・団体が参加・協働できる環境を整え、「パートナー」のつながりを構築し、フェア後の担い手育成にもつなげます。
(4) 広報宣伝計画	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベント等でキャンペーンやPR活動を積極展開します。 パブリシティのほか、SNS等を活用し、開催までの準備情報や協働参画者からの発信・交流も誘発しながら、開催までの機運を高める広報戦略を展開します。 <p>例) 会期前PRイベント、公共交通のラッピング、SNSコンテスト等</p>

(5) 行催事計画	<p>■ 「新たな百年の杜づくり」を主なテーマにするとともに、“暮らしたい、訪れたい、参加したい”をフェアの機会に体感できる行催事でフェアを盛り上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの「百年の杜」づくりの取り組みを振り返り、未来へ継承する機会とする催事やグリーンインフラに着目した企画等を実施します。 多様な主体との連携により、青葉山公園や西公園など公園の利用が、より身近で生活の一部となるようなプログラムや、広瀬川の魅力さをさらに高めるプログラム等の企画を展開します。 体験・食を通して、花や緑をより身近に取り入れる工夫や地元の花きや農作物の魅力にふれ、みどりの魅力を体感できる企画を展開します。 会場を活かした川や樹林・草花等の自然を体感し、“あそび方”を提案する企画を展開します。 街なかにおいて、街路樹等のみどりある空間の中で、企業やまちづくりプレイヤーによる協賛・連携コンテンツやプログラムを展開します。 市民にとっての身近な公園の存在や、みどりと暮らしのかかわりを再認識する機会となるような市民ワークショップ、緑や花・自然への関心を高める体験教室などの企画を検討します。 震災復興の経験と記憶の継承、防災意識の向上を目的としたエクスカージョンやスタディツアー、再生の杜づくりに参加できるプログラムを企画します。 造園関係の学会誘致や、テーマに即したシンポジウムなどを企画します。 <p>例) ◆ワークショップ ◆自然体験プログラム ◆防災エクスカージョン</p>   
(6) 植物調達計画	<ul style="list-style-type: none"> 仙台市内や周辺市町村の生産団体等と連携・協力し、調達体制を構築します。 花き産業の活性化や、市民への花きのより一層の普及を目的に、業界と連携したスキームを構築します。
(7) 交通輸送計画	<ul style="list-style-type: none"> メイン会場は地下鉄、バスの既存公共交通利用を基本とします。 公共交通利用促進の十分な広報と誘導策の実施を図ります。 会場ごとの条件、利用想定に応じた、団体バスや配慮の必要な方のための駐車場を設定します。
(8) 協働推進計画	<ul style="list-style-type: none"> フェア開催を通じて、緑化の推進、継続的な発展について、市民や事業者等との協働により取り組み、表現する機会と場を創出するとともに、人々のつながりを生み出しフェアのレガシーへとつなげます。

8. 事業スケジュール

	開催3年前 R2 (2020) 年度	開催2年前 R3 (2021) 年度	開催1年前 R4 (2022) 年度	開催年 R5 (2023) 年度
計画策定等	基本構想 基本計画	実施計画等		緑 化 フ エ ア 開 催
国との協議	★ 大臣開催同意			
実施体制	◆ 懇談会設置 ◆ 基本計画策定検討会設置	◆ 実行委員会設立		◆ 実行委員会解散
組織体制	◆ 専属担当設置	◆ 実行委員会事務局設置		
会場整備等	設計・整備 (公園整備と連携)			
フェア開催都市	広島県・広島市・他22市町	熊本市	北海道・恵庭市	仙台市